

概要

OSNETサポータ2は、現地または遠隔からOSNETネットワークに接続した装置の設定や、データの表示・回収を行うためのソフトウェアです。

OSNETネットワーク

必要な時に OSNET RS232C 変換器とパソコンを直接接続、または公衆回線、インターネット網等を使用して遠隔から接続することもできます。
現地にパケット通信機 NetMAIL-1 があれば、メール通信で遠隔から接続することも出来ます。

OSNET サポータ2の動作環境

コンピュータ本体
Windows2000、WindowsXP、Windows2003Server、WindowsVista、Windows7の32bit版OSが正常に動作するコンピュータ。

ソフト
Internet Explorer 5.01 以上。(インストールの際に必要です)
ヘルプファイルの表示には電子文書閲覧ソフト(アドビシステムズ社 Adobe Acrobat Reader)が必要です。

ハードディスク
500Mバイト以上の空き容量。

メモリ
Windows2000、WindowsXPの場合は512MB以上(最低256MB以上)、WindowsVistaの場合は1GB以上。

ディスプレイ
1024×768ドット以上の解像度。

モデム(モデム接続をする場合)
公衆回線等を利用して通信する場合、モデムが必要になります。(推奨モデム: OMRON製「ME5614D2」、「ME5614E2」)
すべてのモデムでの動作は保障していません。

USBシリアル変換ケーブル
パソコン本体にシリアルポートが内蔵されていない場合、モデムまたはNetGW-1との接続にはUSBシリアル変換ケーブルをご使用ください。
(推奨ケーブル: Arvel「SRC06-USB」) **ご使用のパソコンとUSBシリアル変換ケーブルの組み合わせによっては正常に動作しない場合があります。**

メール環境(メール接続をする場合)
送信プロトコルSMTP、受信プロトコルPOP3/IMAP4に対応したメール環境が必要。 **SSL認証は非対応。**

主な機能

OSNET サポータ 2 には主に次の機能があります。

OSNET ネットワークの構成を確認(ツリー表示)する機能。 OSNET ネットワークの障害を検出する機能(アドレスの重複、ループ接続)。 OSNET 機器の設定やバージョンアップを行う機能。

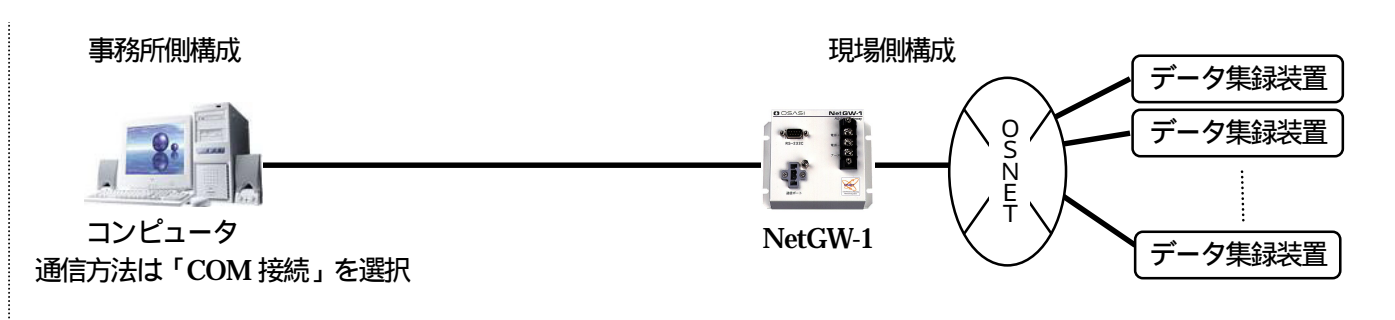
OSNET 機器の記録データ確認、データ回収機能。 データ集録装置や警報出力装置の警報設定・警報状態の確認機能。

OSNET RS232C 変換器「NetGW-1」の代わりに、OSNET パケット通信機「NetMAIL-1」、OSNET ネットワーク無線機「NetMI-P/C」を使用することもできます。

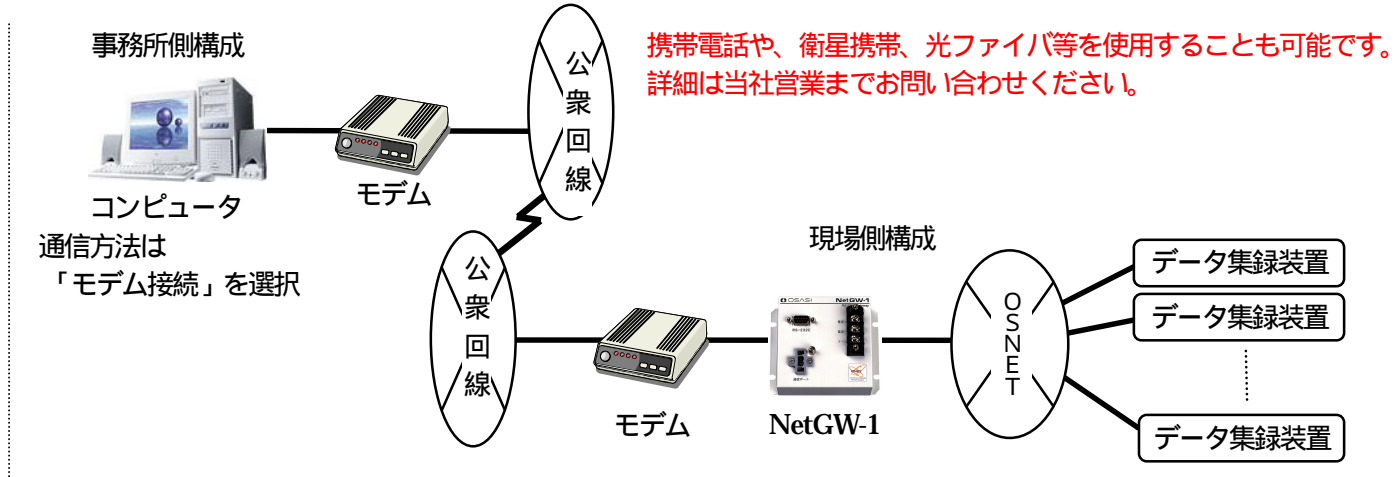
ただし、無線機経由ではバージョンアップ及びデータ回収機能は使用できません。また、無線機経由では通信時間が長くなります。

システム構成例

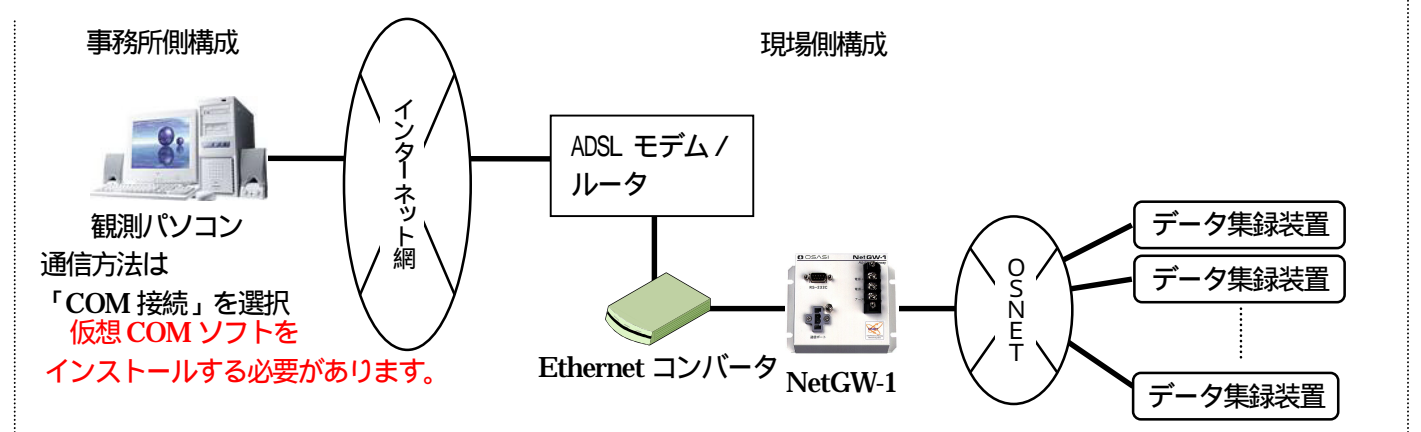
RS232C クロスケーブルで直接接続する



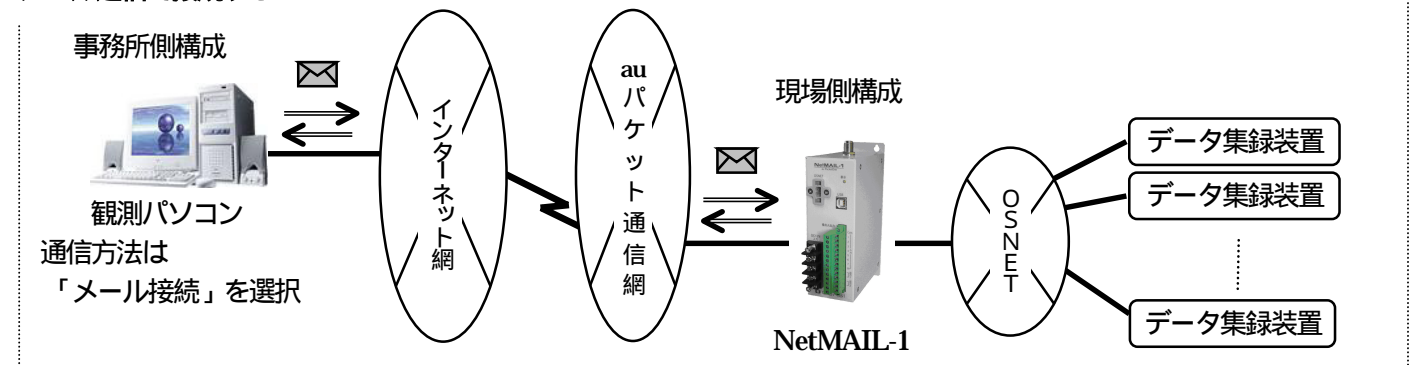
電話回線を使って接続する



インターネット経由で接続する

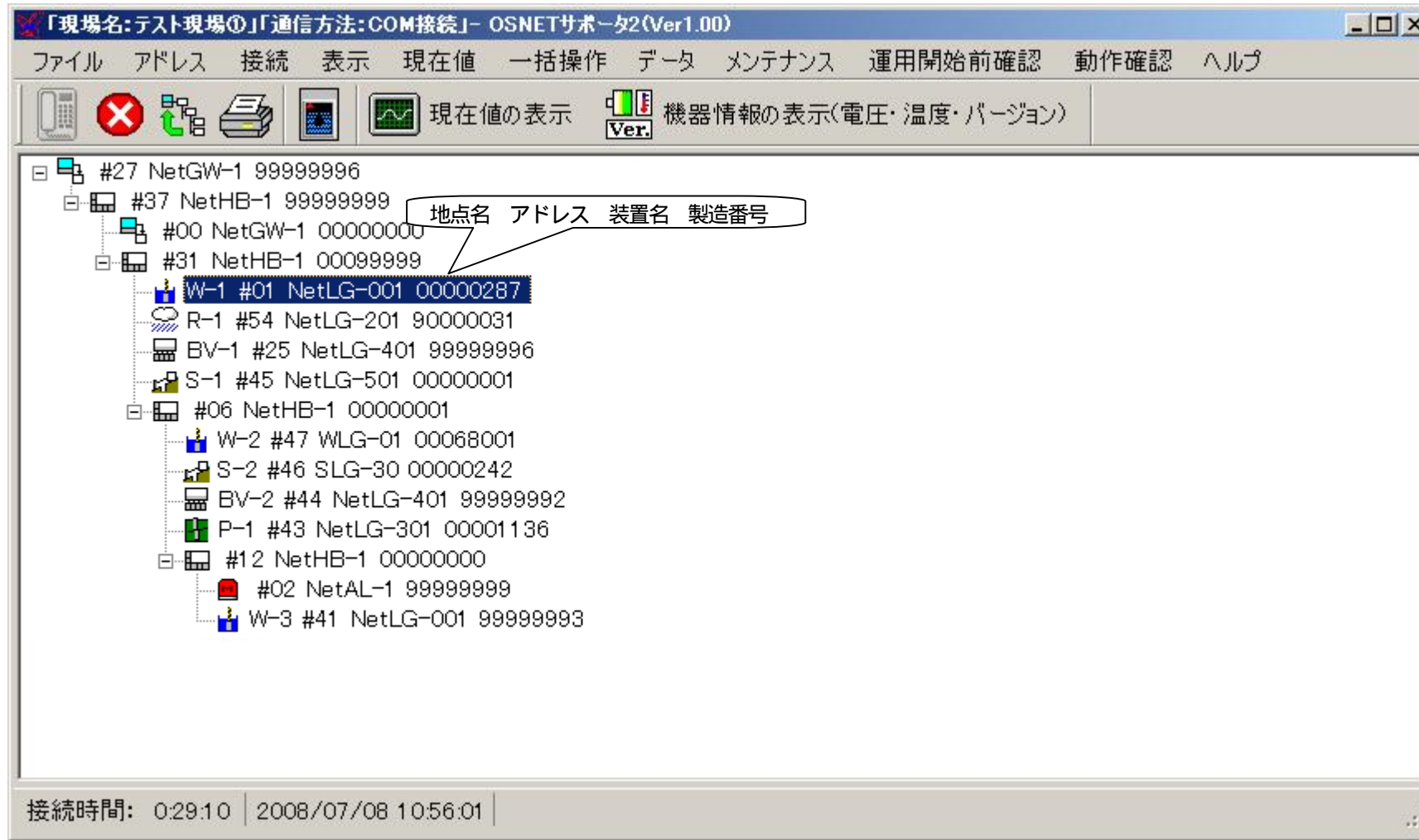


メール通信で接続する



メイン画面

OSNET ネットワークに接続している装置の構成をツリー表示します



「接続」 OSNET ネットワークへ接続します。



「切断」 OSNET ネットワークへの接続を切断します。



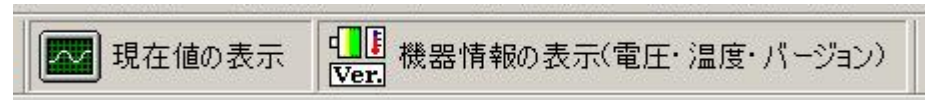
「更新」 OSNET ネットワークの状態を再読み込みします。



「印刷」 表示しているツリーの印刷を行います。



「データ回収」 データ集録装置の記録データ (Logger.dat) の一括回収を行います。

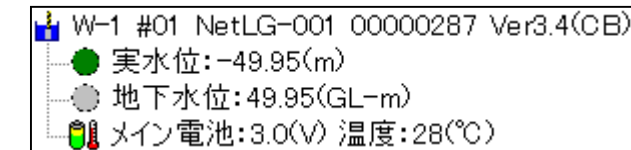


「現在値の表示」

ツリーに現在値が表示されます。ツリーを更新すると、現在値も再読み込みします。

「機器情報の表示(電圧・温度・バージョン)」

ツリーに「電源電圧」「集録装置内部温度」「バージョン」が表示されます。




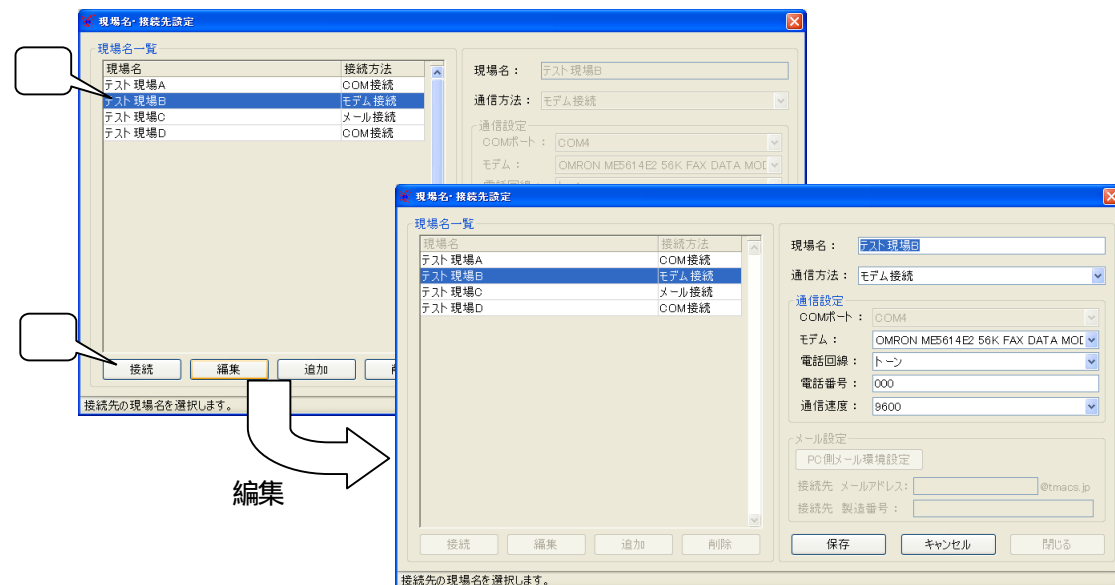
例: NetLG-001 (水位データ集録装置)

現在値の種類は集録装置によりそれぞれ異なります。

値についての詳細は、各データ集録装置の取扱説明書を参照して下さい。

OSNET ネットワークへの接続

OSNET サポータ2 起動時、または  「接続」ボタンで OSNET ネットワークへ接続を開始します。



接続先の指定で接続先を選択します。

新規に接続先を登録する場合は「追加」ボタンを、既に登録している接続先の設定を変更する場合は「編集」ボタンを押して、接続先を編集します。

接続方法	説明
COM接続	RS232C クロスケーブルを使用して接続します。 また、仮想 COM ソフト + Ethernet コンバータを用いてインターネット経由で接続する場合も COM 接続を選びます。
モデム接続	モデムを使用して接続します。(一般公衆回線、携帯電話回線、衛星携帯)
メール接続	メール通信を使用して現場へ接続します。

「接続」ボタンで OSNET への接続を開始します。

各装置の設定、データの確認

ツリーの装置を右クリックすると、各装置個別のポップアップメニューが表示されます。表示されるポップアップメニューは装置毎に異なります。

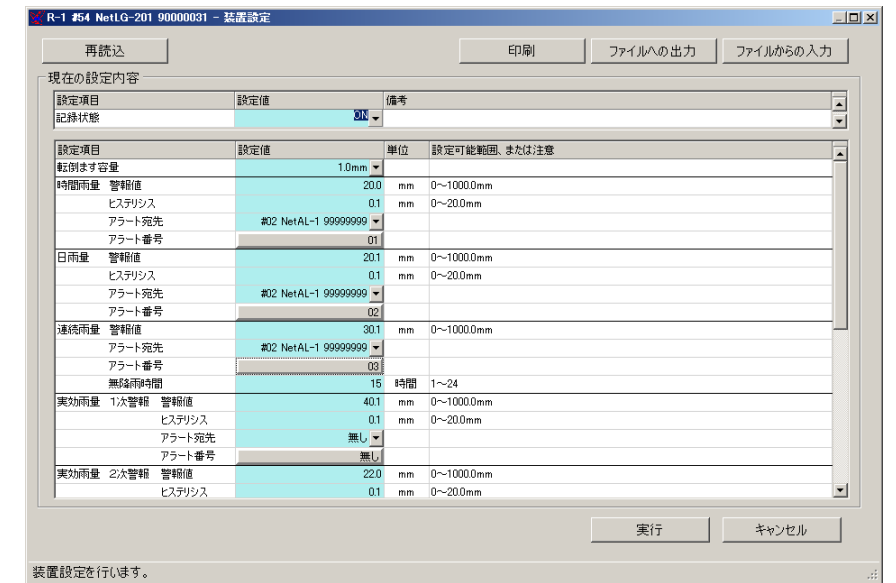


ここから各装置個別の設定、データや状態の確認を行うことができます。

装置の設定

記録状態や警報値等、装置の設定ができます。

設定内容は各装置ごとに異なります。詳細は装置の取扱説明書を参照して下さい。

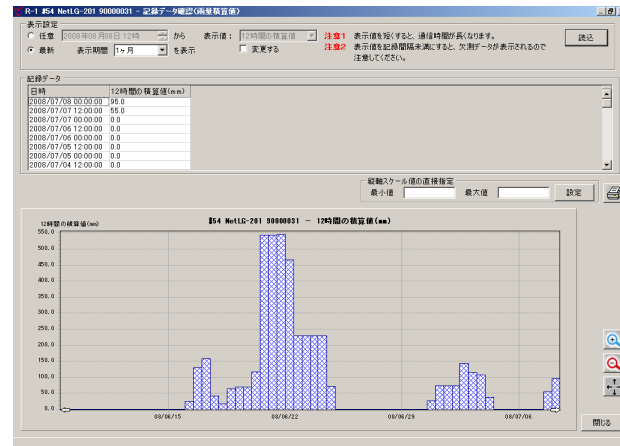


例：NetLG-201 (雨量データ集録装置) 装置設定画面

記録データ確認

表示期間を指定して「読み込み」ボタンを押すと、集録装置に記録されているデータを取得し、グラフで値を確認する事ができます。

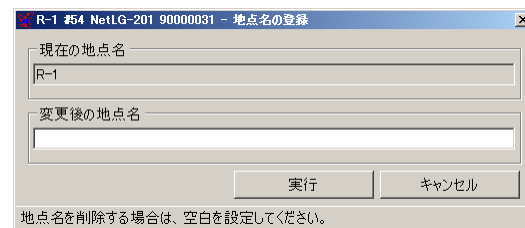
表示される値・グラフは各集録装置により異なります。詳細は装置の取扱説明書を参照して下さい。



例：NetLG-201 (雨量データ集録装置) 記録データ確認

地点名の変更

ツリー上の装置個別に地点名称を付けることができます。ここで設定する名称は、本ソフト上でのみ有効です。装置に地点名を設定するわけではありません。



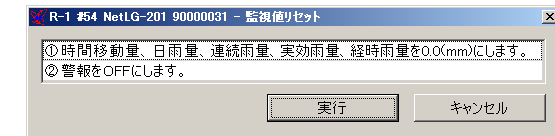
アドレスの変更

OSNET ネットワーク内の装置のアドレスを一覧表示します。開いているアドレスを選択し「実行」ボタンを押すことで、アドレスを変更することができます。



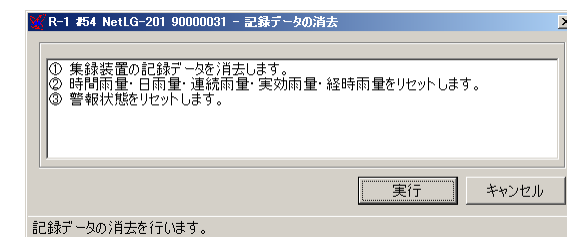
監視値のリセット

データ集録装置の監視値の値をリセットし、警報の状態もOFF にします。リセットする項目はデータ集録装置によって異なります。



記録データの消去

集録装置の記録データを消去します。

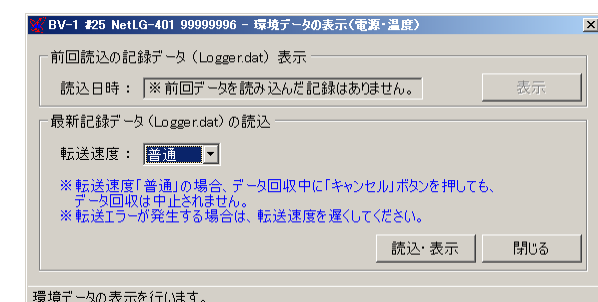


環境データの表示(電源・温度)

装置右クリックのポップアップメニュー「環境データの表示(電源・温度)」

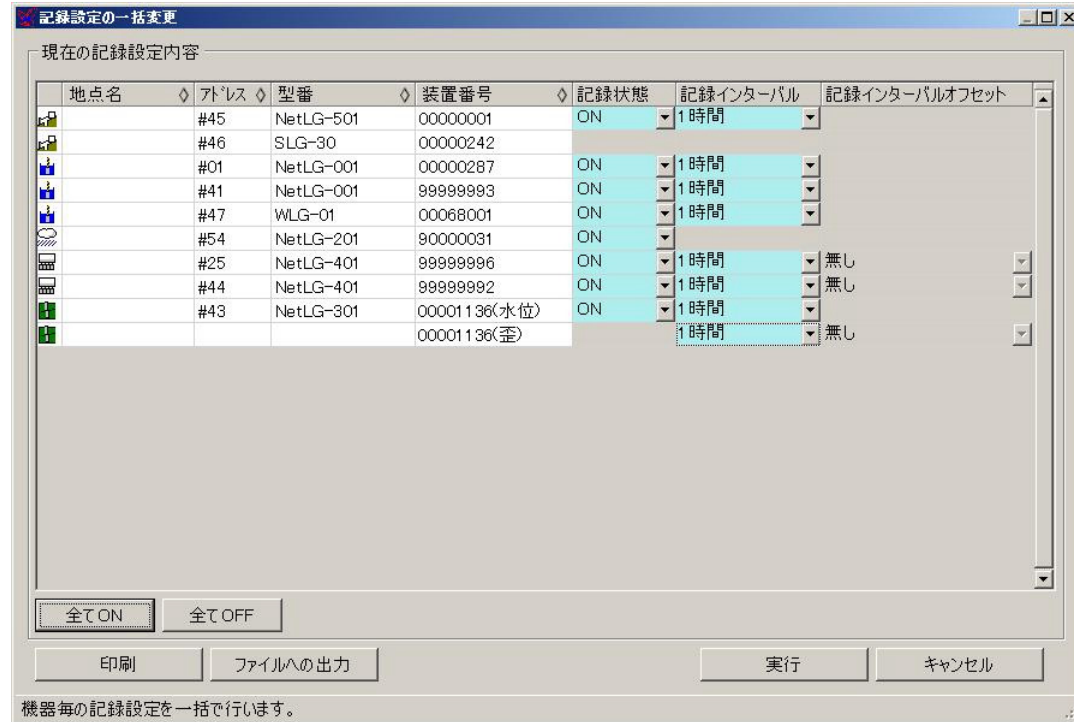
データ集録装置から環境データを取得し、電源電圧と内部温度のデータを PC カードビューア (環境データビューア) で表示します。

PC カードビューアは弊社の製品です。弊社 HP より無償でダウンロードできます。



記録設定の一括変更

全データ集録装置の記録設定を一覧表示し、変更できます。

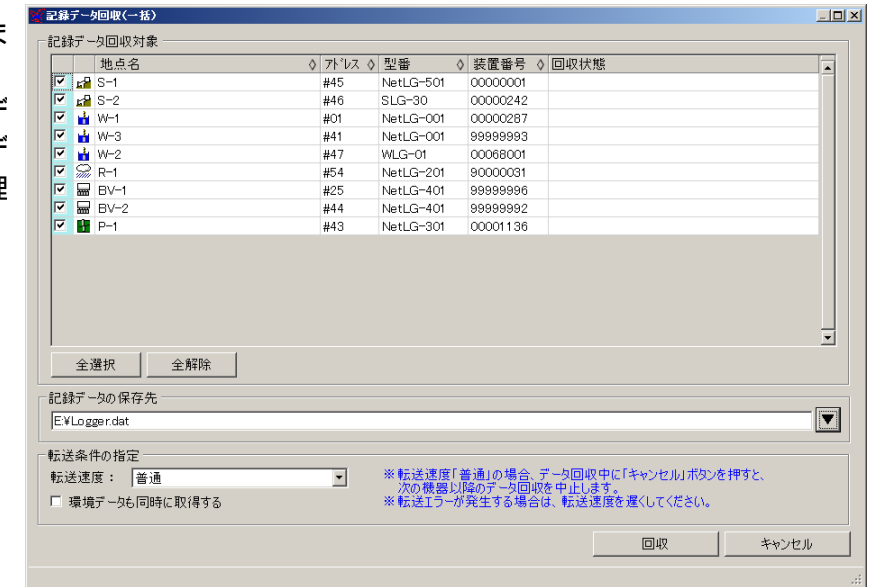


データ回収

集録装置で記録したデータ(Logger.dat)を回収します。

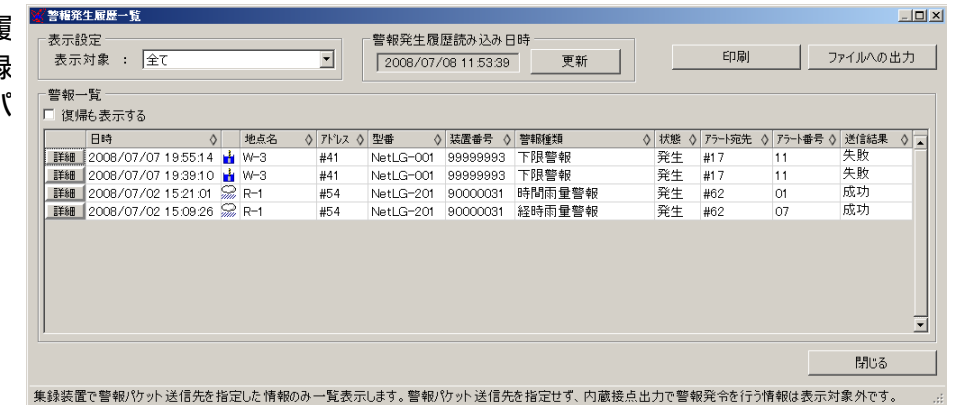
回収したデータは、PC カードビューアを使用してデータの確認・テキスト出力ができます。また、弊社製データ処理ソフト D-Station を使用すると作図・作表処理ができます。

無線機経由の集録装置はデータ回収できません。



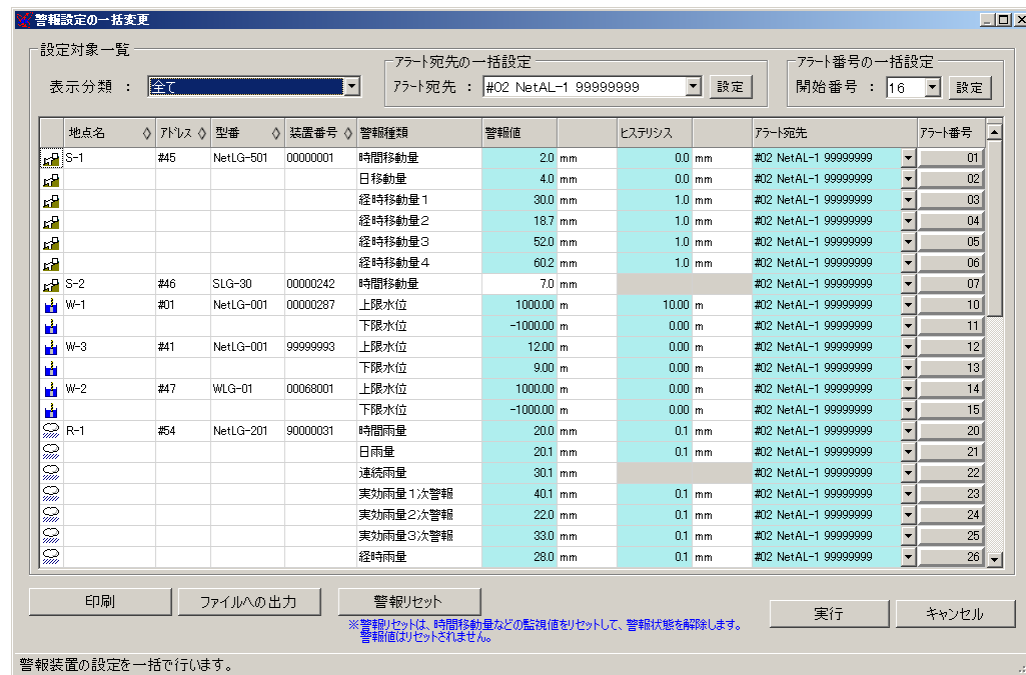
警報発生履歴の一覧表示

OSNET ネットワーク内全集録装置の警報発生履歴を一覧表示します。表示項目は「日時」「集録装置」「警報」「警報パケットの送信先」「警報パケットの状態」です。

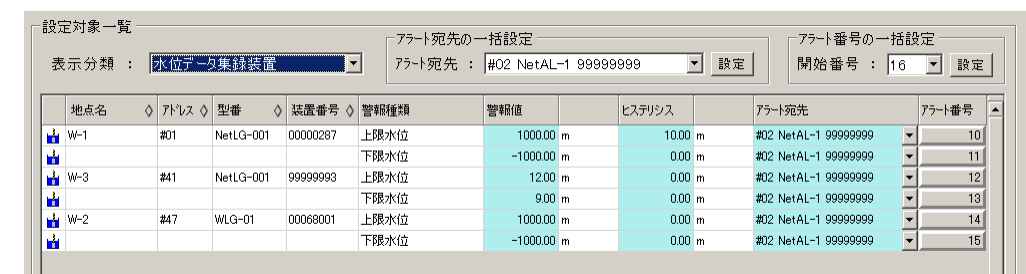


警報設定の一括変更

全データ集録装置の警報設定項目を一覧表示し、警報設定項目を変更できます。



表示分類を指定し、設定対象を絞り込んで操作することも可能です。



運用開始前確認

運用開始前に確認が必要な、以下の操作をまとめた画面です。

- ・警報リセット (監視値のリセット)
- ・データ消去
- ・記録ON/OFF
- ・累積変動量の初期値時刻(NetLG-301のみ)

